令和６年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和6年度策定）	１年間の目標	取組の内容 具体的な方策	取組の内容 評価の観点
1	教育課程 学習指導	①　基礎学力の定着及び学習意欲の向上に向けて、ICT機器（一人一台端末）の活用と学習状況の把握に資する評価の工夫・改善を図る。 ②　カリキュラム・ポリシーの実現に向けた教育課程のマネジメントを進める。	①　昨年度に引き続き、わかる授業（授業改善）や主体的な学び（地域探究活動等）を推進する。 ②　社会的・職業的な自立、福祉のプロを目指したカリキュラム（カリキュラム・ポリシー）をとおした自己実現を図る。	①　ＩＣＴの利用やルーブリック評価の展開も進めて「わかる授業」と「主体的な学び」の取組を推進していく。 ②　学習活動における生徒個々の多様な状況への対応について、SC、SSW等と連携を進める。	①　生徒による授業評価や地域探究活動の振り返り等における生徒の自己評価の肯定的評価が８割を超えているか。 ②　多様な状況に対して、SC,SSWと連携した対応をとることができたか。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①　生徒がそれぞれの得意分野で主人公となって学校生活や学校行事に取り組めるような支援体制の充実を図る中で、コミュニケーションする力を育成する。 ②　基本的生活習慣の定着を図り、モラル・マナー・ルールを遵守する心を育む。	①　コミュニケーションする力を身に付けるための手立て・方策について、研究・実践する。 ②　服装・頭髪指導や交通安全教育をとおして、モラル・マナー・ルールを遵守する心を育む活動を推進する。	①　体育祭や文化祭といった学校行事外の生徒会活動について、生徒会本部役員生徒の学校生活における課題意識等を生徒会活動に具現化していく方策を生徒に働きかけていく。 ②　生徒状況に応じて関係機関とも連携した粘り強い指導を継続する（モラル・マナー・ルールの遵守）。	①　生徒会活動等について、生徒の意見や発案を引き出すことができたか。また、意見や発案に基づいた生徒会活動等を実現できたか。 ②　モラル・マナー・ルールと交通安全に対する生徒の意識向上を、生徒の学校生活ぶりから確認できたか。
3	進路指導・支援	①　計画的かつ継続した指導体制及び支援体制を図り、地元・地域と連携・協働する場面も通じて、学校外の教育資源を積極的に活用して生徒の自己実現を図る。 ②　福祉科においては、介護福祉士養成をとおして、福祉を担う有為な人材の育成を図る。	①　自らのキャリアプランの構築するために、引き続き系統的に指導・支援するとともに、学校外の教育資源も積極的に活用していく。 ②　福祉科については、専門職としての資質を満たす学習内容を一層充実させていく。	①　卒業生や地元企業による説明会、連携先大学との活動等、また、地域探究活動もとおして、地域とのつながりを大切にしながら、進路実現に向けての取組を推進していく。 ②　福祉科については、地域行事への参加も積極的に進めて、専門職としての意識を高め、学習内容を一層充実させていく。	①　地域ともつながりを持った情報発信や指導・助言ができたか。また、進路未定の卒業生の人数が前年度より減少したか。 ②　福祉科においては、専門職としての意識を高めるうえでの地域行事等への参加ができたか。また、介護福祉士国家試験合格率が全国平均を上回ったか。
4	地域等との協働	①　「地域探究」活動を推進し、地元・地域の特色を活かした生徒活動の場の拡充を図って、地元・地域における生徒の学習機会を充実させる。 ②　学校情報の積極的な発信を図り、地域社会からも理解され愛される学校づくりを推進する。	①　昨年度に引き続き地域探究活動の支援体制を整えるとともに、活動と評価の一体化を図る。 ②　PTA活動等を通じた保護者との連携も深めて、学校情報の共有と発信を推進する。	①　ルーブリックを使用した指導と評価を導入した探究活動の展開等をとおして、PTAや地域における活動団体等との連携を強化していく。 ②　生徒の活動の様子をはじめとした学校の活動情報の発信において、学校HP等の更新・活用を積極的に進める方策を確立する。	①　探究活動におけるルーブリック評価を定着させ、活動と評価を一体化させることができたか。 ②　学校HPの更新を適時思惟しできたか。また、学校行事に参加する保護者が増加したか。
5	学校管理 学校運営	①　「自分の命は自分で守る」防災意識の向上を図るため、防災訓練等の内容を工夫・改善を進める。 ②　働き方改革を推進し、生徒と教員が相互に関わる時間を確保していく。	①　近年多発する自然災害を念頭に、地域における防災（教育）の充実を目指す。 ②　生徒の学校生活にも資する働き方改革の推進を図る。	①　防災教育においては、当事者からの話を聞くことが生徒の意識啓発に有効であったことから、引き続き同様の取組を進めていく。 ②　ICT機器の活用方法等のさらなる工夫・改善を追求して、生徒と教員が相互に関わる時間を確保していく。	①　昨年の実施した「当事者の話を聞く」も含めて、防災教育に新機軸を打ち出すことができたか。 ②　これまで以上に生徒と関わる時間を確保できるようになっという教員の実感が得られたか。